

ブルーベリー収穫用作業台車

研究のねらい

ブルーベリーは適熟の果実を確認しながら一粒一粒手作業で収穫する必要があるため、多くの労力を要します。また、カゴを肩にかけたり腰に付けて収穫作業をするため、果実の重さが体への負担となっています。そこで作業の省力化と負担軽減を図るため、収穫用作業台車を（株）マツモトと共同開発しました。



写真 ブルーベリー収穫用作業台車

技術の特徴

- 1 台車は、台車フレーム、果実受けホップ、果実収納コンテナ、車輪で構成されます。畦間を手押ししながら使用し、手で摘み取った果実をホップに投入すると果実は損傷することなくコンテナに収納されます。
- 2 収穫作業時間は慣行作業と同程度～1割の短縮となります。
- 3 収穫後の果実のブルーム剥離状態を5段階で評価すると、出荷に望ましいと思われる1～3段階の割合は、台車使用で81%、慣行作業で83%となり、ほぼ同程度です。
- 4 作業台車を使用することで、慣行作業に比べて作業者の疲労感が少なくなります。

特に、腰が痛い、肩がこるなどの“だるさ感”、ねむい、全身がだるいなどの“ねむけ感”が緩和されます。

- 5 台車が未収穫果実に触れて落下しないように、通路の幅や繁茂状況を考慮して使用してください。
- 6 ほ場の傾斜は10°程度までは問題なく使用できます。

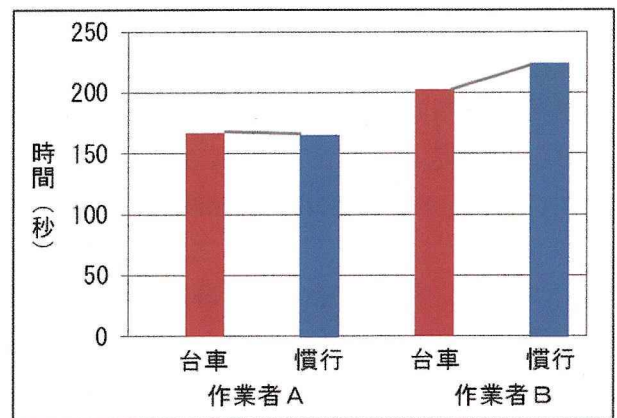


図1 収穫作業時間（100個あたり）

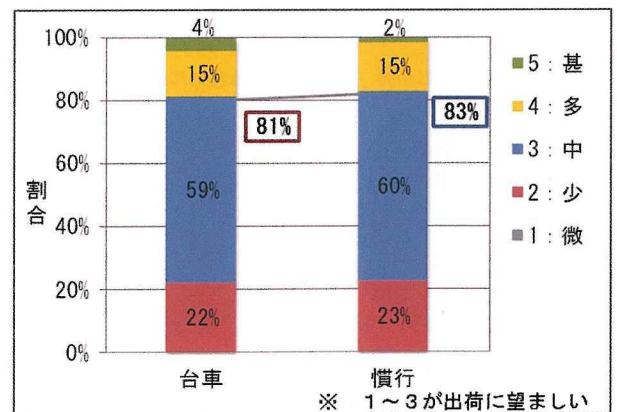


図2 ブルーム剥離の比較

今後の取り組み

今年度から（株）マツモトから販売されています。今後は、普及機関と連携しながら生産者への普及を図ります。

（執筆者：宮崎 聖子）